IBULIVE いぶりぶ

いぶり+Live

医療法人 社団 いぶり腎泌尿器科クリニック 広報誌 春号 NO.21 季刊誌

泌尿器科・血液透析

坪院長の健康講座

細菌感染による急性炎症性疾患について

院長 坪 俊輔

今回は、泌尿器科臨床で多くみられる細菌感染による急性炎症性疾患についてお話しします。

【1】急性膀胱炎＝排尿痛・頻尿・残尿感・尿混濁・血尿などが主な症状で、高熱は出ません。殆どが成人女性に発症し、短期間の抗生剤投与で治るのが普通です。難治性膀胱炎の場合には、膀胱腫瘍など原因となる病気が隠れていないか検査が必要となります。

また子供や男性の膀胱炎様症状は、難治性膀胱炎と同じく原因の有無につき検査が必要です。一般的な急性膀胱炎の予防としては、排尿を我慢しすぎない・局所の清潔保持・適度な水分摂取・性生活後の排尿などがあげられます。

【2】急性腎盂腎炎＝前記の膀胱炎症状に加え、高熱・背部痛を伴うことが一般的です。原因のない急性腎盂腎炎は、その殆どが女性のようです。子供の症例では、膀胱尿管逆流症や先天性水腎症など、生まれつきの尿路異常が隠れている場合があり検査が必要です。

大人では、腎結石や尿管結石が原因の場合も多いようです。治療は抗生剤投与・水分補給・安静が主ですが、原因がある腎盂腎炎では、その原疾患に対する手術的治療が優先する事もあります。

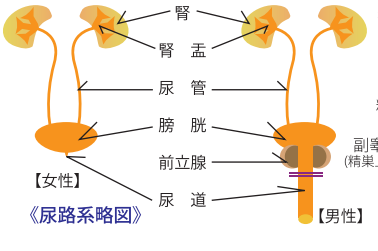
【3】尿道炎＝男性で排尿痛・尿混濁・尿道からの排膿などが主な症状で、一般的に発熱はありません。性行為感染症（STD）であることが多く、原因菌の同定と投薬治療が不可欠です。

なお、不完全な治療では将来的に尿道狭窄（排尿困難をきたす）になる可能性があり、完全に治す必要があります。

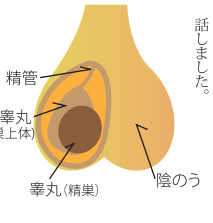
【4】急性前立腺炎＝排尿痛・頻尿・尿勢低下などが主な症状で、多くの場合発熱を伴います。必ず尿路感染があり、抗生剤の投与とともに、尿閉例などでは一時的な間欠導尿の併用による排尿管理が必要になります。もともと前立腺肥大症などによる排尿障害がある方に多いような印象です。

【5】急性副睾丸（精巣上体）炎＝陰嚢内容の硬い腫脹・疼痛・発赤が主な症状で、多くは発熱を伴います。治療は抗生剤投与とともに、局所のクーリングが必要です。通常保存的治療で治りますが、ごくまれに局所が化膿（膿瘍化）して、手術が必要になることもあります。

以上、泌尿器科臨床で多くみられる、細菌感染による急性炎症性疾患についてお話しました。



《尿路系略図》



日本腎不全看護学会 学術集会に参加して

透析室看護主任 辻 和子

今回のテーマは「見つめよう・伝えよう・拡げよう・私の腎不全看護」と題して、「看護」「患者・家族理解」「管理」「災害」「医療安全」に関する発表が行われました。

慢性の病と共に生きることを理解し、支援していくためには、病気の経過に重点をおくだけでなく、患者様やご家族の経験をもとに、生活を知り病気を管理し、病気と共に生きていく方策を発見することが求められます。そのためには、看護師の支持的姿勢が必要であり、その人の内面に一人の人間として近づくことが重要であると発表されていました。

我が国の透析患者数は、2010年末で29万7千人を超え、年々高齢の方、合併症を持つ方が増加しており、治療と介護・心理的援助を統合し、安心と安全を支える看護がより一層求められています。

私たちの看護実践・経験は、多くの患者様との関わりの中で育まれ前進していきます。患者様が今までどのような生活をされ、どのような想いでいらっしゃるのか、これからどうされたいのか、看護者は共に考え、悩み、歩んで行けたなら―、と思います。また、看護者同志が自分の看護について語ることも重要であり、その場を持つことが必要であると感じました。

さらに今回は、東日本大震災を体験した透析施設の貴重な発表も拝聴することができました。患者様と一緒に避難した看護師さんは、「何でもいい！人から話しかけられると嬉しかった。独りじゃないと感じた」と話されていたのが印象的でした。

この度の集会では、人が人を支援することについて、深く考える場となりました。今後も人の想いに寄り添いながら、関わりを持ち、透析看護に役立てたいと考えました。

第７回看護研究発表会を開催

病棟看護主任 田中 麻記

２月26日、第７回看護研究発表会が「みらい館」にて行われ、当院の看護師33名が参加しました。各部署の情報共有と、質の高い看護を目指すことを目的とし、日頃の取り組みを発表しました。

テーマは「外来化学療法を安全に行うための記録の見直し」、「デスカンファレンスを試みて」、「抜針事故のリスク軽減のための取り組み」、「術中皮膚障害改善の考察」など、業務改善や緩和ケア、医療安全についての研究発表が行われました。

各部署が動画や写真を用いた、とてもわかりやすい発表で、参加者は真剣なまなざしで、発表に聞き入ってました。質疑応答で意見交換をすることで、知識をより深めることもできました。

発表会の最後には、河野師長より「日々進化する医療の中で、新しい知識を取り入れて活性化させてほしい。これからを担うスタッフに期待したい」と講評があり、参加したスタッフからも「各部署が知識を深め研究していく事で、クリニックとしての看護力を高められる機会になった」、「自分の看護を振り返る良い機会になった」と、日々の業務や看護を再確認し、新しい知識を得ることで今後の看護ケアの向上を目指す、活力を感じることができた発表会でした。

診察予約の方法を変更しました。

※待ち時間の緩和をはじめ、患者様の満足度アップを目的に変更しました。※詳しくは窓口でお問い合わせください。

●受け付けは午前中8時から11時半まで
午後は13時から16時半までです。

※尿検査がありますので予約時間の10分前にお越しください。

●予約時間より早く来院されても、早くお呼びすることはございませんので、ご注意ください。

■発行：いぶりぶ発行委員会 伊達市梅本町2番地15いぶり腎泌尿器科クリニック内 TEL0142-21-1400 FAX0142-21-1401

■発 行/平成24年4月10日 ■4月・7月・10月・1月の年4回発行 ※本誌掲載の写真、記事の無断転用は固くお断り致します。 ●発行責任者：横井 浩

医療法人 社団 いぶり腎泌尿器科クリニック 泌尿器科・血液透析

http://www.ibujin.com

職場紹介 頑張ってます 第4回 手術室看護編

手術に伴う傷以外、心にも身体にも傷を付けない

年間3百件弱の手術数を支える

手術室看護には、6人のスタッフが在籍しています。臨床工学技士と、機器などの消毒を担当する中央材料室の看護助手、各1人が含まれています。それぞれが他部署との業務を兼務する精鋭ぞろいで、年間3百件に迫る手術件数を支えています。

この件数は単科の専門病院としては、非常に高い実績で、2012年版の医療専門誌「北海道の病院」（北海道新聞社発行）の前立腺がん手術数で、上位にランクされているなど、これまで、様々なメディアに取り上げられています。これは開院当初より、地域医療に貢献する証として、手術室ばかりではなく、病院全体の誇りとなっています。

1日5件を超えたことも

手術は火曜、木曜が内視鏡的な比較的軽い手術を行っています。全身麻酔を要する膀胱がんや前立腺がんなどの手術は、水曜に行い、金曜夕方を予備日としたサイクルで、日常の業務に臨んでいます。

過去には、1日5件の手術を行ったこともありました。厳しい場面で緊張感を持続し、事故なく仕事を全うしてきた経験を基に、これからもあらゆる状況で、冷静に対応するよう、スタッフ一丸となり取り組んでいきます。

医師へのサポートが一番大切

手術室での主役は医師で、先生がやりたいこと、しようとしていることを先読みし、施術しやすい環境をつくっていくのが、看護師の大切な役目です。

当院の先生方は手術が早く、要する時間も短いため、患者様への負担が軽減され、術後の回復へも好影響を与えています。冒頭の件数に対する評価も、数値だけではなく、高度な技術に裏打ちされる結果が大きいといえ、支える看護スタッフの一番の誇りでもあります。

医療の進歩にも素早く対応

医療器具、機器の進歩には目覚ましいものがあります。内視鏡、軟性鏡の普及は、入院せずに外来での施術が可能になりました。これにより患者様への負担軽減も、大幅に図られています。

比較的軽い、簡単な手術では、手術室には入らず、病室で行える例も多くなり、手術に対するイメージも、時代と共に変わりつつあり、精神的な負担の軽減にもつながっています。

手術は正確に、素早く行うことで、患者様の身体にも、心にも優しい結果を与えます。我々手術室看護チームは、患者様のあらゆる負担を軽減させ、1日も早い回復を願い、日々の業務にあたっています。

一日でも早く、仕事を覚えたい。

新人紹介 山本 仙彦事務部総務課

有珠町の出身、地元の小、中学校から室蘭の高校に進学した。札幌の大学を卒業後、在京の大手メーカーに就職、コンピュータシステムの設計という、当時は時代の最先端を行く職業に就いた。

13年間、東京で花の独身生活を謳歌していたが、女手一つで育ててくれた母親が体調を崩したため、思い切ってUターンを決心、08年に有珠に帰ってきた。室蘭市内の企業に勤めていたが、縁あって今春当院に就職、アラフォーの新人職員として頑張っている。

当面の目標は、「一日も早く仕事を覚えたい」といたって謙虚。コンピュータ畑から医療現場への転身も「母が看護師だった」と、何かしらの縁を感じさせる。すぎただ話題が多いなか、母を思う優しさを応援したい。早く身を固め、お母さんを安心させてほしい―、と願うばかり。

お年寄りに優しく接する

新人紹介 八反田 茉幸病棟看護師

小学生の時、ボランティアで訪れた老人ホームでお年寄りと触れ合い、社会の役に立ちたいと看護師を目指した。高齢者との交流で、心の中にあった優しさを、自然に意識するようになった。

高校卒業後、札幌市の看護学校に進学し、夢の実現へ向けた第一歩を踏み出す。卒業後は同市内の病院へ就職、あこがれの職業「高齢者に優しく接する」という想いは、遠いものに感じられた。

そんな中、縁あって当院へ今春就職、理想は今も変わってはいない。その実現のためには、「気持ちに余裕を持ちたい」ときっぱり答えた。「不器用なので妥協はしたくない」と、芯の強さをのぞかせ、自らが理想とする看護の実践へ向け、力強い一歩を、踏み出した。

安心感与える仕事を…

新人紹介 井出 恵利香事務部医事課

生まれ育った旧・虻田町の環境が好きで、札幌の大学に学んだ時を除き、ほぼ地元で暮らしている。卒業後は洞爺湖町の団体で働いていたが、この春から当院の事務スタッフとして勤務するようになった。

きっかけは人の紹介もあったが、医療事務への関心が高まり、「資格を取りたい」と考えていたため、迷うことなく決断した。「今後は実戦で実力をつけたい」と、一日も早い資格取得を目指す。

年齢の割に落ち着いた雰囲気があり、安心感を与える接遇は、天性のものを感じさせる。趣味は買い物で、休日には親しい友人と札幌へ出かけることが多い。「早く仕事を覚え、役に立つ人材になりたい」と目標を定め、頑張る日々を送り、来院者に「安心感」を与えている。

column コラム 待合室 No.21

戻ってきた風景

○…昨年夏号の本欄で書いた「消える風景」を覚えているでしょうか。洞爺湖町と、伊達市北黄金町にあったメジロ牧場撤退の話題を交え、豊かな環境に恵まれた伊達市について、様々な方向から考えてみた内容でした。そのメジロ牧場に昨年、馬が帰ってきました。うれしくて、とてもうれしくて、素晴らしい自然の散歩コースに、心癒してくれる風景が帰ってきたのです。

○…馬たちは、「レイクヴィラファーム」と名前を替えた牧場に戻ってきました。こうなることは、昨年の早い時期に報道はされていましたが、伊達の牧場には動きが見えなかったため、「伊達は縮小閉鎖かな」と勝手に思ったり、マイナス思考に陥っていたのです。そんな中、数ヶ月ぶりに馬達を見たときの喜びは、ひとしおのものがありました。

○…これからの時期、牧場にはタンポポが咲き乱れ、黄色い可憐な花のジュータンを駆け回る子馬を、心配そうに見つめる母馬といった、微笑ましい光景が見られます。もっと暖かくなれば、栗毛や鹿毛の美しい馬体が「ゴロン」と横たわり、母子で昼寝するなんとも平和な光景も見られます。

○…昨年の大震災による放射能汚染のため、飼育していた馬を手放す牧場主夫婦が、売られていく馬達に頻繁に、「ゴメンね」と泣きながら謝る姿を捉えた報道番組がありました。なんという不条理でしょう。人間と馬の違いはあれ、一緒に暮らし信頼しあった「命」の、極めて不自然な別れに、魂が揺すられ、やり場のない激しい怒りを感じました。

○…農業とは文化の基盤です。人類の源を揺るがす危険を、人類が作り出す不条理ほど、空しいことはありません。しかも、これは対岸の火事ではなく、この伊達市でも起こり得る事実です。心癒してくれる環境が、根こそぎ奪い取られる悲劇の可能性が、常に存在しているのです。

○…ここで、政治的なことや、社会思想に関して論じるつもりはありません。この豊かな自然環境を、どんな時代にも、全ての人が共有できることを、願うばかりです。さらには、この願いが、世代やイデオロギーに捉われることなく、社会の共通した価値観、世界観であることを、強く強く信じていたいのです。

当院の顧問弁護士が、悩みの相談に応じます。

悩みを引きずらず、思い切って相談してみましょう！

借金・債務整理　相続・遺言　交通事故　離婚問題　etc.

担当弁護士 上田 勝啓（札幌弁護士会所属）

■相談無料■

●ご希望の方はお気軽に当院の横井事務長までご一報ください。

TEL 0142-21-1400(代)

悩みは万病の元 その悩みひとまず 弁護士へ 法律相談始めます ※秘密厳守